

## 特色ある区づくり事業「じゅんさい池みらいプロジェクト」

### 第2回 じゅんさい池みらい会議 会議概要

開催日時	令和2年11月18日（水）午後1時～2時30分
会場	中地区コミュニティセンター 会議室
出席委員・アドバイザー	五十嵐委員、佐藤委員、長谷川委員、服部委員、山中委員、渡邊委員 浅野アドバイザー、澤口アドバイザー、高橋アドバイザー
事務局	地域課長ほか同課より3名、区民生活課より1名、建設課より1名
概要	<p><b>【報告】</b>            前回会議の振り返り及び本プロジェクトの工程を確認した後、事務局より、以下の点について報告しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東池の環境整備活動について</li> <li>・東区だよりでの広報、ホームページの作成など、PR活動について</li> <li>・里潟研究ネットワーク会議との連携（ガイドブックの作成）について</li> </ul> <p><b>【議事】</b></p> <p>○事務局より、じゅんさい池の現状やこれまでの取組み等について以下の項目ごとに概要を説明しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本情報      ・成り立ち      ・歴史      ・公園としてのじゅんさい池</li> <li>・地域等のこれまでの取組み      ・じゅんさい池に対する声</li> <li>・環境調査</li> </ul> <p>○アドバイザーより、各分野に関する講話がありました。</p> <p>澤口アドバイザー：地形学の調査手法（空中写真判読）について</p> <p>浅野アドバイザー：じゅんさい池公園に渡る野鳥等からみえる特色や魅力について</p> <p>高橋アドバイザー：じゅんさい池に関する聞き取り調査の状況と「王瀬の長者伝説」との関係等について</p> <p>○午前中に実施した現地学習とアドバイザーからの講話を通して、じゅんさい池公園の価値や課題、今後のあり方などについて意見交換を行いました。</p> <p>○委員及びアドバイザーからは、主に次の意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゅんさい池は古代から現代まで時々刻々変化しており、どの時点を目標に定めて環境整備や保全をしていくのが難しいと感じた。東池と西池を各々どの程度の質で管理していくのか判断するには、行政だけでは難しい面も</li> </ul>

<p>概要</p>	<p>あると思う。みらい会議では委員それぞれの立場から意見を出して区と一緒に考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーの解説を聞きながらの現地学習は大変有意義だった。今後のPRを考えるうえで、ガイドや案内をどのように活用するかということもひとつのポイントになるのではないかな。</li> <li>・じゅんさい池の魅力だけでなく、家庭で育てられなくなった生き物や植物を持ち込まないというような基本的なルールなど環境教育面でのPRも必要だと感じた。</li> <li>・東区内でもこの地域から少し離れると興味・関心が薄いと感じている。里潟研究ネットワーク会議が作成するガイドブックをうまく活用してPRしていく必要があると思う。</li> <li>・じゅんさい池と周囲の緑地は、地形の面からも、他から分断された環境という面からも極めて特殊な環境といえるのではないかな。</li> <li>・じゅんさい池は、移動性の低い生き物や植物にとっては他から切り離された環境だが、鳥やコウモリなど境界なく関係しているものや、周囲の人の生活と密接に関わってきたという面もあると思う。多様な側面があり、また、未だ分からない点が多いという魅力もあるのではないかな。</li> <li>・外来種の問題については、「撲滅」、「現数量の制限」、「今後持ち込ませない」という3段階をどのように組み立てるかということになる。今ある（いる）ものを捕る・減らすという場合は、その利用についても考えると良いのではないかな。</li> <li>・本プロジェクトでは、環境保全の視点だけではなく、この地域の生活・文化との関わりという観点での議論や発信も考えていくべきだと思う。環境面と歴史や文化面の扱い方のバランスも大切。</li> <li>・「玉瀬の長者伝説」との接点があるかもしれないという話を聞き、じゅんさい池だけに限定して考えるのではなく、東区の歴史や文化、その他の活動などと関連づけて考えていけると、関心をもってもらえる範囲が広がると思う。</li> <li>・このプロジェクトは地域の動きが市（区）の事業につながっているケースだと思うが、その後広がっていかず、その時限りになってしまうことが他の地域でも課題になっている。広く関心を集めて持続する取り組みになっていくと良い。</li> <li>・妥協点を探りまとめる作業は難しいが、環境面でいえば、色々な立場の意見があって良いし、それらの意見を出し切れる場が大切だと思う。どのように区民・市民を巻き込んでいけるのがポイントのひとつになると思う。</li> <li>・環境面ではなかなか関心を持たない層にも、歴史や伝説などの面からアプローチすることで、興味をもってもらえる可能性があり、じゅんさい池は多様</li> </ul>
-----------	--

<p>概 要</p>	<p>な側面があると感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは歴史や伝説に興味のある子、鳥や生き物に興味がある子など興味の対象は多様なので、きっかけとなる面が多いことは広がりのひとつになると思う。</li> <li>・教員をはじめ、子どもたちに伝える側の大人に対して正しい知識や専門的な情報を提供してもらえる場やツールがあるとよい。</li> <li>・「未来につなぐ」というコンセプトにもあるように、子どもや地域の学校にどう興味をもってもらえるかが大切。北区では、昨年度発行された「十二瀬ガイドブック」をきっかけに、地域の小学校で新しい取り組みを始めているようだ。</li> <li>・子どもたちへ教育・伝承は、学校（教員）に頼るだけでなく、コミ協などの地域が担い手になることも考えていくべきではないか。大人が子どもたちへ正しい情報を伝える材料としても、里瀬研究ネットワーク会議のガイドブックは大きな意味があると思う。</li> <li>・今年度里瀬研究ネットワーク会議が作成しているガイドブックは子どもを対象にしているものではないとのことだが、来年度以降、小学校高学年程度の子どもの理解できるくらいのガイドブックを作成するのはどうか。以前、中地区公民館の事業で作成された紙芝居（「じゅんさい池とりゅうじんさま」）をみたが、やさしいことばでもじゅんさい池の全体像がみえるものだと感じた。</li> <li>・じゅんさい池は、地形的な成り立ちから暮らしに関わる歴史や環境の面まで、“地域の変化を最も古層まで映す鏡”であると思う。今後策定する「(仮)じゅんさい池みらいプラン」も、魅力だけでなく課題の提起も含めて次代に受け渡せる内容になると良い。</li> </ul>
------------	---